

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	耕作放棄地での野菜作りを通じた地域の方々との交流プロジェクト
対象地域	栃木県日光市三依地区
対象地域の概要	 【位置図】 栃木県内図  【位置図】 日光市内図  【三依地区中心地】  【上三依地区耕作放棄地再生事業対象地】
提案内容の概要	昨年度からの関わりで明らかになった地域住民の生活ニーズに対応した事業を引き続き実施すると共に参加体験型プログラムを導入し、事業の自立に必要な収益性を高め、加えてさらによそ者の関わりを増やし、担い手を増やしていく。また作物/人材の地域内外循環の社会的実験と調査研究を行なう。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	昨年の野菜づくりを通じた地域住民との交流事業において地域の生活課題ヒアリング活動により、以下のような課題が判明した。 ・耕作放棄地：年々増えて来ている。高齢化に伴い農業をする人が減ってきていること。跡継ぎがいないこと。野菜を作っても鳥獣被害を受け、作る気が萎えてしまうこと。などが要因として考えられる。 ・医療の問題：週一回の診療所はあるもの、それだけでは心配との声。 ・交通の問題：診療所へ行くためにボランティアでバスを運行しているが、安定供給の点で心配がある。また買い物などは、集落から離れたところに行く必要性があり、車がある人に同乗していくなどの対応はしているが、不便。また集落内のガソリンスタンドがすべて閉鎖したこともあり、車のガソリンは遠出したときに入れられるが、農業機(トラクターなど)に使う軽油は手に入らず困っている。 ・鳥獣被害：作っても猿やイノシシに農作物がやられてしまい、生きがい作りの野菜作りへの気持ちがなえてしまう。また個体数調整を兼ねた地元猟友会も高齢化と減少(現在4人)で追いつかない。 ・空き家問題：空き家もあるが、地域住民の貸し出すことへの抵抗感もあり、有効活用とはいかない。また地域には不動産屋はいないことも1つの要因として考えられる。 ・情報の問題：地上デジタル放送が入らない地域になっている。またブロードバンド環境もインターネット光も入らず、ISDNのまま対応している。観光が主要産業であるものの外への情報発信が弱く、悩んでいる。 ・雪かきの問題：昨年度はあまり降らなかったが、それでも県内一の豪雪地帯でもあり、1mは積もった。高齢化に伴い、雪かきの負担は大きい。家の前までは何とかできるが、屋根の上や公共の場所(公民館や消防小屋前)、空き家の前までは人手が回らない。
(2) 活動内容の案	【活動①】：地域内外循環と住民生きがいの農業支援のための耕作放棄地活用野菜づくり事業

集落内生きがい作りの農業再興のための耕作放棄地活用野菜作り事業

昨年度の実績が反映し、耕作放棄地をまとめて貸し出す地域住民の案もある中、耕作放棄地を活用した野菜作り（横川集落畑）を引き続き地域住民と連携しながら実施する。

野菜の販路（宇都宮市の野菜直売所、道の駅）ができたので、できた作物を資金に変えて行く。その資金を地域課題対応に還元することで、地域内外循環のモデルとしていく。

野菜作り事業に関しては、野菜作りの他、耕作放棄地再生の社会実験、鳥獣被害対策の検討/情報収集/社会実験、高付加価値創出/食品加工の検討（漬物やスモーク商品、BBQ セットレンタル事業などを想定）、販路拡大の模索を行なう。

上記のような事業を通して、生きがい作りの農業を応援できる道筋を立て、地域住民に活用してもらえよう巻き込んでいく。（例えば地域で取れた野菜と一緒に販路に流していくなど）

また空き家を活用した拠点作りも引き続き探していき、滞在できるようにしていく。

活動②：新たな担い手（よそ者）を集め、応援隊にしていって課題対応型、地域理解型、参加型体験プログラムの実施

よそ者が地域を知り、課題対応、資源活用する体験プログラムの実施

昨年度の地域住民との繋がり、課題の掘り起こしからのメニュー作りを活かし、プロジェクトメンバー以外の外部者を巻き込む参加プログラムを開発/運用し、地域を担う人材を増やす。具体的な体験プログラムは以下の通り

地域資源活用型プログラム、自然遊び教室

地域の資源や課題を外へアピールするだけでなく、外から中に人を呼び込み参加型かつ地域理解、課題対応型プログラムを作成し、都市と農村の交流と外から課題対応できる人材を増やしていく。

具体的には、地域資源活用型プログラムとしては、宇都宮の小学生を持つ親子ターゲットにして、夏場に三依自然遊び教室を宇都宮市子どもの会、三依地区 PTA、市民グループ自然教室ネイチャーフレンド（プロジェクトメンバー）、市民グループ宇都宮こどもの秘密基地を作る会（プロジェクトメンバー）と連携しトライアル的に実施する。川遊び、山遊び、雪遊び、炭作りなどを実施予定。

課題対応型プログラム、耕作放棄地再生/萱刈り体験、雪かき体験

野菜づくりを行う畑とは別の畑（上三依の畑）で萱刈りや土壌改良などが必要な耕作放棄地の再生（課題対応）によそ者の協力を求めていくことを参加プログラムとして実施。課題対応にツアー的要素を取り入れ、感動や達成感のあるプログラムにしていく。主なターゲットとしては、都市部の親子（自然教室に参加した親など）や社会体験が不足している若者（ニートや引きこもり、薬物依存経験者など、県内の支援団体（若者自立塾、とちぎユースサポーターズネットワーク、栃木 DARC など）と連携）を考えている。その他、将来的には企業の社会貢献事業として社員旅行のプログラムとして提案できるようにしていきたい。

次年度の事業計画の準備プログラム、「ムラの先生」事業の模索

都市部の住民を対象に地域の生活の智慧、生活技術を集落住民が先生となり、伝えていくプログラムを実施するに当たり、地域住民の暗黙知や伝えられる住民の発掘を行いたい。「人」を地域資源として捕らえ、財産とする事業展開をしていきたい。

活動③：集落課題に対する調査研究事業（情報収集、分析、情報発信）

昨年度に引き続き、課題の把握や研究を行い、社会的認知を高めていくと同時に、関心醸成を行っていく。栃木県内において限界集落における調査研究を行なう市民団体レベルの動きはなく、限界集落の分野において先進的に行政と NPO の連携を実践していく。

応募団体名	特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房
リンク	http://homepage2.nifty.com/shiminkoubou/
部局／担当者名	岩井俊宗
連絡先	utshiminkoubou@yahoo.co.jp
推薦市町村名	日光市